

あつま

生涯学習だより

発行 厚真町教育委員会 電話27-2495

主な記事

- ・第66回厚真町成人式
- ・室内ソフトボール大会のご案内
- ・地域ボランティアの募集
- ・11月定例教育委員会の報告
- ・あつま教師カアップ研修会の報告
- ・厚真町スポーツ推進委員会からのお知らせ
- ・図書室だより
- ・放課後子ども教室活動紹介

第66回厚真町成人式

第66回厚真町成人式が、1月12日に総合福祉センターで開催されました。今年は平成5年4月2日から平成6年4月1日までに生まれた方56人が対象で、44人が出席し、社会人としての第一歩を歩み出しました。

佐藤泰夫教育委員長による式辞では、「人生の困難にくじける事なく、家族や地域社会を愛し、ふるさと厚真を愛してください。」と激励しました。

式典では、誓いのことばを保田牧子さん（鹿沼）、交通安全宣言を立石侑さん（本郷）が行い、気持ちを新たにしていました。また、厚真町からの記念品を畑嶋春美さん（京町）が宮坂尚市朗町長から受け取りました。

式典の最後に、新成人を代表して高安崇真さん（共栄）による答辞が行われ、これまで二十年間育ててくれた両親へ感謝の気持ちを話し、会場から大きな拍手が送られました。

式典終了後は、今年厚真町応援大使に就任した日本ハムファイターズの赤田選手、矢貫選手の成人メッセージDVDがサプライズで流され、また、町民吹奏楽団の演奏では、Queenの名曲「I was born to love you」等が演奏され、新成人の門出にエールを送りました。

会場では、お祝いに駆け付けた厚真町イメージキャラクターのあつまちゃんと記念写真を撮ったり、友人たちとの親交を温めていました。



朗読とギターの演奏会

厚真町教育委員会では、「朗読とギター」の演奏会を開催します。

プロのアナウンサーとギタリストが繰り広げる臨場感あふれる朗読と演奏をぜひご鑑賞ください。皆様のご来場をお待ちしています。

とき 平成26年2月7日 金曜日 午後6時30分から（1時間20分程度）

ところ 青少年センター2階ホール

演目
 ・宮澤賢治「虔十公園林」
 ・角田光代「ぬいぐるみ」『Presents』より
 ・ギターソロ演奏

参加費 無料（申し込み不要）

朗読 田嶋 扶二子（たじま ふじこ）

ギター 廣田 幸政（ひろた ゆきまさ）



室内ソフトボール大会

「第19回室内ソフトボール大会」を開催します。皆さんの参加をお待ちしています。

- ◆とき 2月18日【火】～21日【金】
開会式 午後6時から（初日のみ）
第1試合 午後6時30分開始
第2試合 午後7時30分開始
第3試合 午後8時30分開始
- ◆ところ あつまスタードーム
- ◆出場資格 町民または町内に職場を有する方で中学生以上の方。職場・自治会・グループなどチーム編成は自由です。
ただし複数チームへの選手の2重登録はできません。
- ◆監督会議 2月10日【月】午後7時
- ◆申込み 2月4日【火】午後5時までに各自自治会や前年度出場チームに配布している申込み用紙に記入し下記宛に提出してください。
- ◆問合せ 教育委員会 社会教育グループ
☎27-3775（スポーツセンター）



11月定例教育委員会

11月29日に開催された定例教育委員会の会議の内容についてお知らせします。

- ◆報告事項 英語教育推進委員会小中連携部会、町教育研究会研究指定校公開研究会について（9件）
- ◆協議事項 平成25年度全国学習状況調査結果の概要について（1件）
- ◆その他 学校給食費の引き上げ検討について、平成27年度以降の英語教育小・中教育課程特例校指定に向けた取り組みについて（2件）
- ◆問合せ 教育委員会学校教育グループ ☎27-2494

いじめ、不登校を考える

1月9日（木）北海道教育大学札幌校教授 庄井良信氏をお迎えして、今年度3回目となる「あつま教師力アップ研修会」を開催しました。

教育委員会では、本町の教職員に学力の向上や、いじめ・不登校の問題等の多様化する教育課題に伴う教職員の力量の向上のため、様々な形で研修の場を提供しています。

今回の研修会では、『今の子どもたちを取り巻く孤独感、生きにくさ』をテーマに、子どもたちにどうよりそって指導すべきかを学びました。



学校支援ボランティア 放課後ボランティア募集中！

学校の教育活動中や放課後に子どもたちの成長を見守って頂ける“地域ボランティア”の方々を募集しています。「できるときに」「できることから」「できる範囲で」……子どもたちの健やかな成長を見守る優しい応援団になっていただけませんか？

お気軽にお問合せください。

- ◆問合せ 教育委員会 社会教育グループ
☎27-2495

厚真町スポーツ推進委員会 からのお知らせ ふまねっとって知ってますか??

ふまねっと運動とは、50センチ四方の大きな網目のできた“あみ”を踏まないように歩くという、どなたでも簡単に楽しめる運動です。

体への負担が軽く、ゆっくりとした動きの運動なので大勢でにぎやかにレクリエーション感覚で行うことができ、転倒予防など歩行機能の改善や認知機能の改善にとっても効果があります。

まずは、教育委員会社会教育グループ（電話27-2495）までご相談下さい。

実施したい日時や会場をお伺いし、調整したうえで有資格指導者（ふまねっとサポーター）を派遣します。

実施の目安は？

場所は、各自治会の生活会館やマナビィハウスで実施できます。

人数はご相談に応じますが、4～20名位がちょうどよいでしょう。

所要時間は1回あたり90分程度が目安です。

みんなで楽しみながら健康ライフを送りましょう♪





成人おめでとう!



図書室だより

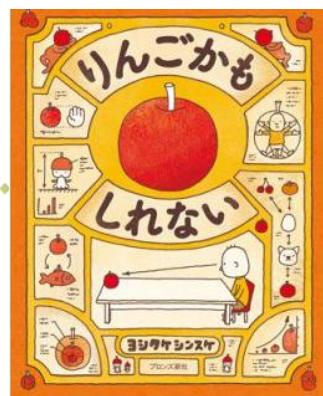
第6回MOE絵本屋さん大賞2013が決定しました!

2013年12月20日に、第6回MOE絵本屋さん大賞が発表されました。

今回1位に選ばれたのはヨシタケシンスケ作の『りんごかもしれない』(ブロンズ新社)でした。

ヨシタケ氏はイラストレーターであり、挿絵や装画などを多く手がけ、絵本は本書がはじめての作品。「このりんごはもしかしたら、りんごではないかもしれない」というところからはじまる、「かんがえる」ことを果てしなく楽しめる発想絵本です。

●MOE絵本屋さん大賞は、月刊MOEが全国の書店・絵本専門店の児童書売り場担当者1200人にアンケートを実施し、もっとも支持された絵本30冊を決定する年間絵本ランキングです。



★その他の入選作品★

『からすのおかしやさん』かこさとし/作・絵 偕成社

『しろくまのパンツ』tupera tupera/作 ブロンズ新社

『ノラネコぐんだんパンこうじょう』工藤ノリコ/作 白泉社

などなど……

1月15日から図書室で特集をしていますので、ぜひ覗いてみてください。

今回紹介した本の他にも楽しい本がたくさんありますよ!

成人・卒業などを迎えた若い人に贈る本

図書室からのおススメ本♪

成人式も終わり、これから卒業式・入学式……あるいは入社式のシーズンになっていきます。

ちょっと今までと違うテイストの本を読んでみるいい機会になりそうです。

もしかしたらこれからの自分にとっての1冊が見つかるかもしれませんよ。

『何者』朝井リョウ

『想像ラジオ』いとうせいこう



「御山大学」という架空の大学の1年留年した大学生5人が集まり、表面的に仲よくするもののたがいに心の内を見せずに就職活動を臨む様を通して、就職活動・人間関係・若者の「何かになる」ことを描く。第148回直木三十五賞受賞作。この作品で作者は初の平成生れの直木賞作家となった。



耳を澄ませば、彼らの声が聞こえるはず—。東日本大震災をテーマにした、『文藝』掲載時より口コミで話題を呼んだ生者と死者の新たな関係を描き出した作品。第149回芥川賞候補、第66回野間文芸賞受賞。

このほかにも……

○『色彩を持たない多崎つくると彼の巡礼の年』村上春樹

良いニュースと悪いニュースがある。多崎つくるとして駅をつくることは、心を世界につなぎとめておくための営みだった……あるポイントまでは。

○『野心のすすめ』林真理子

“高望み”で、人生は変わる。駆け上がってきた時代をふりかえりつつ、人生は何度でもリセットできることを説く、著者初の人生論新書。

新着図書紹介

ここに書いてある以外にもたくさんの新着図書
があります。みなさんどうぞご利用下さい。

一般書

『ノボさん
小説 正岡子規と夏目漱石』
伊集院 静 /著



明治20年、ベレー帽を被るに夢中の青年
正岡子規は東大予備門で夏目漱石と運
命的な出逢いを果たす。
2人の姿を描いた青春小説。

- ・ 原発ホワイトアウト 若杉 冽 /著
- ・ インフェルノ 上・下 ダン・ブラウン /著
- ・ 疾風ロンド 東野圭吾 /著
- ・ 逃亡者 新堂冬樹 /著
- ・ 貴族と奴隷 山田悠介 /著
- ・ 追憶の夜想曲(ノクターン) 中山七里 /著

児童書

『武器より一冊の本を下さい
少女マララ・ユスフザイの祈り』
ヴィヴィアナ・マッツァ /著
横山千里 /訳



わたしが勉強したいという思いを、銃で
撃つことはできない。女性の教育につ
いて訴え、タリバンに撃たれた少女マラ
ラ・ユスフザイの物語。

- ・ 都会(まち)のトム・ソーヤゲーム・ブック
はかみねかおる /作
- ・ ローズマリーとヴィーナスの魔法
あんびるやすこ /著
- ・ 怪談オウマガドキ学園 常光徹 /著
- ・ グレッグのダメ日記8 ジェフ・キニー /著

実用書

『2020年新聞は生き残れるか』
長谷川幸洋 /著



新聞、テレビ、インターネットなどメディア
を取り巻く環境の激しい変化と将来につ
いて考える。今求められているあり方と
は何なのか。

- ・ おうちでできるえんげ食 板垣卓美 /著
- ・ ひと皿で体が元気になるお粥と麺の本
パン・ウェイ /著
- ・ 身ぎれいな終いじたく 天沼寿子 /著
- ・ できる大人のものの言い方大全 LEVEL2
話題の達人倶楽部 /著

絵本

『はしれディーゼルきかんしゃデーデ』
すとうあさえ /作



2011年3月26日、新潟から郡山
をつなぐ磐越西線を、ディーゼル機
関車が2台連結して10両の燃料タ
ンクをひっぱって走り始めた。

- ・ ぼくだってウルトラマン よしながこうたく /作
- ・ いくらなんでもいくらくん シゲタサヤカ /作
- ・ くまくまパン 西村敏雄 /作
- ・ とってもおおきなサンマのひらき
岡田よしたか /作
- ・ ぼくのふとん 鈴木のりたけ /作

～図書室からのお知らせ～

■図書室開館時間と休館日

【青少年センター図書室】

午前9時から午後5時(月・水・金・土・日)

午前9時から午後7時(火・木)

2月11日【火】は祝日のためお休みです。

【厚南会館図書室】

午前9時から午後5時(月～日)

※毎月5日・20日が土日・祝日の場合は休館となり
ます。

■読み聞かせ

おはなしのびっ子

2月27日【木】午前10時30分から午前11時

エプロンシアター「アンパンマンとバイキンマン」

■2月の移動図書

7日【金】

上厚真小学校 午前10時10分～10時25分

12日【水】

ともいき荘 午前10時30分～11時00分

14日【金】

上厚真小学校 午前10時10分～10時25分

21日【金】

上厚真小学校 午前9時45分～10時00分

28日【金】

上厚真小学校 午前10時10分～10時25分

宮の森保育園 午前10時35分～10時45分

☆放課後子ども教室☆

新しい年を迎えました。冬休みも終わり、16日（木）から放課後教室も3学期の活動がスタートです。3学期はここから約2カ月半とあっという間に時間が過ぎていきそうですね。1日1日を大切にしていきたいと思います。

昨年末、放課後子ども教室では冬休みの特別教室を実施しました。普段の活動よりも長く深い活動ができるこの特別教室。今回は『冬の森あそび体験教室』と題し、“木育”をテーマに厚真町の自然を外遊びとモノづくりで体感する2つの企画を全3日間の日程で実施しました。木育という言葉は平成16年に北海道で生まれました。【子どもをはじめとするすべての人が、木とふれあい、木に学び、木と生きること】を理念とし、子どものころから木を身近に使っていくことを通じて、人と、木や森との関わりを主体的に考えていこうと、道内でも各地で様々な取り組みが行われています。まちの面積の約7割を森林が占める厚真町。恵まれた自然環境に意識を向けてもらうことと同時に、子どもたち自身の暮らしと森や木とのつながりを考える機会にしたいという思い、今回のプログラムを企画しました。1日目は、実際に厚真の森へ行き、遊びを通じて森のおもしろポイントを探したり、森林整備の体験をしたりしながら森あそびの魅力を体感しました。町有林に到着すると、早速、ふかふかの新雪に飛び込む子どもたち。山ブドウのツルを使ったターザンごっこや木登り、キツツキの食痕や大きなハチの巣の観察など、次々に森の中にあるおもしろいモノを見つけていきます。午後からは、厚真町役場産業経済課の職員の方や地域おこし協力隊の林業支援員として活動されている方などにご協力をいただき、間伐など森の手入れを体験。子どもたちは上手にのこぎりを使い、込み合っているところに生えた細い木を切る作業を行いました。専門家から聞く間伐の意義、作業における注意事項はやはり重みと深さが違います。子どもたちもいつになく真剣に耳を傾けていました。



特別教室2日目・3日目は、暮らしの中に厚真の木を取り入れることを目標に、森の手入れのために切った木を使い、世界にひとつだけのイスをつくるプログラムを行いました。“木は二度生きる”と言われていきます。ひとつは地に根を張って枝葉を伸ばしながら。もうひとつは、木材として加工され、新たな価値を生み出されてから。今回、厚真の森からいただいた間伐材は子どもたちの個性が光る40脚のイスとなりました。のこぎりやインパクトドライバー（電動ドリル）を使い、ただの木の枝だったものが少しずつ組み立てられ、イスの姿になっていきます。大人の手を借りながらも、自分が思い描いたモノが形になっていく過程に子どもたちも満足気な様子でした。



こうしたプログラムができ、子どもたちの満足度を高められたのもご協力いただいたスタッフのおかげにほかなりません。役場職員、地域おこし協力隊、地元の林業関係者の方や木工細工に詳しい方、農業者の方など地域の大人の顔が見える活動となりました。また、町外からも大学生や社会人の方がお手伝いに来てくださったり、子どもたちの保護者の方々にも活動に際し、ご理解とご協力をいただきました。自然のチカラ、人のチカラは厚真町に育つ子どもたちにとって大きな財産です。身近にある自然を地元の子供たちが享受できる環境をつくっていくことは私たちの、ひいては地域の大人の役割なのかもしれません。今後も地域の資源を活かし、結びつけていく体験活動をたくさん展開していきたいです。